ヒロ・ヒライ【選】

『魔法の門』
ポルタ・マジカ
と
錬金術
をさらに愉しむための
ミニ・ブックガイド

八坂書房

『魔法の門』と錬金術をさらに愉しむためのミニ・ブックガイド！

ローマに現存するヨーロッパ唯一の錬金術的な「遺蹟」をめぐるミーノ・ガブリエレ著『魔法の門［ポルタ・マジカ］』の出版を記念して、その内容をさらに愉しむためのミニ・ブックガイドを、勁草書房 BH 叢書（bibiotheca hermetica）の監修や YouTube の BH チャンネルでおなじみのヒロ・ヒライさんに作成していただきました！

はじめの一歩

●スタニスラス・クロソウスキ・ド・ローラ　　種村季弘・松本夏樹訳
『錬金術―精神変容の秘術』　　平凡社　2013 年
（新版イメージの博物誌）　　978-4-582-28438-6　1800 円＋税

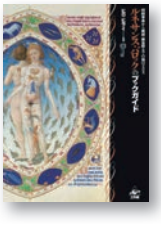
錬金術にまつわる美しい図版を網羅した本書は、まさに「見る」錬金術書。もちろんそれにとどまらず、「ジョージ・リプリー卿の幻視について」の本文も収められている。　（邦訳初版＝「イメージの博物誌」6 ／ 1978 年刊）

●ウォレン・ケントン　　矢島文夫訳
『占星術―天と地のドラマ』　　平凡社　1977 年
（イメージの博物誌 1）　　▲978-4-582-28401-0　1942 円＋税

ルネサンスの星学写本の細密画を堪能して欲しい。プトレマイオスの宇宙論、アルブマセルの天球論から派生した占星術は、現在の獣帯占いとは趣を異にするが、ホロスコープ占いの出自を教えてくれる入門編。

●ローレンス・M・プリンチーペ　　ヒロ・ヒライ訳
『錬金術の秘密―再現実験と歴史学から解きあかされる「高貴なる技」』　　勁草書房　2018 年
978-4-326-14830-1　4500 円＋税

古代末期のギリシア語圏エジプトから西洋近現代までの錬金術の歴史を最新研究と再現実験にもとづいて記す決定版。とくに最終の第 7 章は、錬金術の黄金時代であるルネサンス期の「エンブレム的な世界像」を読みとくカギとなる。



●ヒロ・ヒライ監修
『ルネサンス・バロックのブックガイド―印刷革命から魔術・錬金術までの知のコスモス』　　工作舎　2019 年
978-4-87502-503-0　2800 円＋税

ルネサンス期の印刷革命や人文主義から初期近代の科学革命、そして錬金術や占星術、魔術といったオカルト諸学についてまで、100 点を超える邦訳書や邦語による著作を紹介。錬金術の背景となったルネサンスの魔術的な世界観を知るために役立つ入門編。

＊価格税別
▲印＝ 2022 年 6 月末時点で版元在庫なし

錬金術の一歩先へ

●ロバート・J・W・エヴァンズ　中野春夫訳
『魔術の帝国　ちくま学芸文庫　2006年
―ルドルフ二世とその世界』上・下　978-4-480-08947-0 / 08948-9
▲各1400円＋税

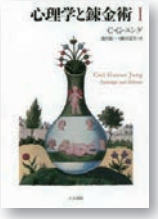
魔都プラハに宮廷をかまえた神聖ローマ帝国の皇帝ルドルフ2世の政治や宮廷文化、そして背景にあった魔術的といえる「エンブレム的な世界像」に踏みこむ刺激的な本書は、エヴァンズの代表作にして不朽の名著。

（邦訳初版＝1988年平凡社刊）

●フランセス・イエイツ　山下知夫訳
『薔薇十字の覚醒　工作舎　2019年
―隠されたヨーロッパ精神史』（新装版）　978-4-87502-504-7　5000円＋税

歴史研究書というよりも、歴史小説にかぎりなく近い本作では、錬金術師たちが闊歩する皇帝ルドルフ2世が宮廷をかまえた魔都プラハを中心に知的興奮にみちた話が展開する。ただただエンターテーメントとして楽しんで欲しい。

（邦訳初版＝1986年刊）



●C・G・ユング　池田紘一・鎌田道生訳
『心理学と錬金術』I・II　人文書院　2017年
（新装版）　978-4-409-33055-5 / 33056-2
4200 / 4700円＋税

占星術や降霊術などのオカルト諸学に強い関心をもっていた心理学者ユングは、錬金術を純粋に精神的な活動の投影であると解釈して新境地を開拓した。錬金術についてのユングの思索を読みとくカギとなるのが、後述する『立昇る曙』と『逃げるアタランタ』なのである。

（邦訳初版＝1976年）

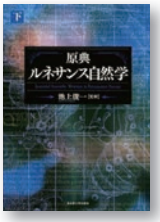
さらに錬金術の原典へ

●M・マイアー　大橋喜之訳
『逃げるアタランタ　八坂書房　2021年
―近世寓意錬金術変奏譜』　978-4-89694-285-9　4500円＋税

マイアーの『逃げるアタランタ』は、ルネサンス期の寓意的な錬金術書の伝統における最高傑作。本書はその全訳で、50のエンブレムの図版に彩られた錬金術を知るにはマストな一冊。

●『立昇る曙　大橋喜之訳
［アウロラ・コンスルジェンス］　八坂書房　2020年
―中世寓意錬金術絵詞』　978-4-89694-273-6　4500円＋税

上記のマイアーの念頭には『立昇る曙』の譬話がつねに浮かんでいたようだが、どうやら彼は図像のない刊本でしかこれを知らなかったようだ。本書に収められた図像の数々は、ルネサンス以前の中世的な錬金術の想像力を直視させてくれる。



●池上俊一監修　名古屋大学出版会　2017 年
『原典 ルネサンス自然学』　978-4-8158-0880-8 / 0881-5
上・下　各 9200 円＋税

伝トマス・ノートン『錬金術式目』が下巻に収録されている。また本書にはアグリッパ『オカルト哲学について』、パラケルスス『像についての書』、ジョン・ディー『数学への序説』、フィチーノ『太陽論』などの論考も収められており、必見。

●ラムスプリング　有田忠郎訳
『賢者の石について』（他一篇）　白水社　1994 年
（ヘルメス叢書 4 ／新装版）　▲ 978-4-560-02290-0　3600 円＋税

16 世紀末にドイツ語で出版された錬金術詩に寓意エンブレムを 15 枚ほど収録し、『逃げるアタランタ』の先駆となった作品。手彩色の図像を収めた写本があるが、画家は不詳。この図柄を用い、メリアン作とされる刊本銅版画は『逃げるアタランタ』公刊後に制作された。（邦訳初版 = 1977 年）

●ジョスリン・ゴドウィン　吉村正和訳
『交響するイコン　平凡社　1987 年
―フラッドの神聖宇宙誌』　▲ 978-4-582-52303-4　2600 円＋税

出版業者ド・ブリーが公刊した神智学者ロバート・フラッドの『両宇宙誌』は、文字通りマクロコスモスとミクロコスモスについての百科事典であり、『逃げるアタランタ』と同じ工房で製作された図像で満ちている。

●ジョスリン・ゴドウィン　川島昭夫訳
『キルヒャーの世界図鑑　工作舎　1986 年
―よみがえる普遍の夢』　978-4-87502-115-5　2900 円＋税

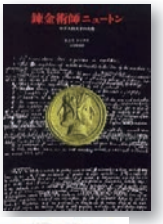
イエズス会が総力をあげて蒐集した知識に数多の空想的な図像を掲げて集成したキルヒャーの著作群を網羅的に紹介した「図鑑」。「魔法の門」が造作された十七世紀という時代の想像力を、まのあたりに見せてくれる綺想の書。

●マルク = アントニオ・クラッセラーム　有田忠郎訳
『闇よりおのずからほとばしる光』　白水社　1994 年
（ヘルメス叢書 5 ／新装版）　▲ 978-4-560-02291-7　3800 円＋税

さまざまな経緯があってイングランドのフリーメイソンの経典にまでなったとされる錬金術的詩編。「魔法の門」に関連して、その著者サンティネッリと、これの註釈を書いたグァルディの姿も浮かびあがる。はたして黄金の薔薇十字会とは何だったのだろう。（邦訳初版 = 1979 年刊）

●モンフォーコン・ド・ヴィラール　田中雅志訳
『ガバリス伯爵　北宋社　1994 年
―或いは隠秘学をめぐる対話』　▲ 978-4-938620-56-1　3107 円＋税

「魔法の門」の巷説に語られるボッリの『書斎（ガビネット）の鍵』を下敷きに、ド・ヴィラールが翻案したガバリス伯爵のものがたり。薔薇十字会の秘密を発いた書とやらいわれるオカルト学の対話篇。



●B・J・T・ドッブズ 大谷隆昶訳
『錬金術師ニュートン みすず書房　2000 年
—ヤヌス的天才の肖像』 ▲ 978-4-622-04116-0　7500 円＋税

クラッセラームの上記の書を丹念に英訳で書写した科学者にして錬金術学徒ニュートン。「魔法の門」を造作したパロンバーラ侯爵が読みふけった錬金術書群はまた、ニュートンが架蔵していた書物の数々でもあった。ニュートンと錬金術のながきにわたる関係を説いて、この科学者の評伝に画期をしるしたもの。

ルネサンスのエンブレム的な世界

●アンドレア・アルチャーティ 伊藤博明訳
『エンブレム集』 ありな書房　2000 年
（エンブレム原典叢書 I） 978-4-7566-0063-9　3200 円＋税

ルネサンス期にはエンブレム書が大流行し、重要な知的伝統となるが、本書は文字通りこの伝統の礎石となった記念碑的な一書。ルネサンス期の錬金術師たちが馴染んだ「エンブレム的な世界像」の骨格を確認できるだろう。

●フランチェスコ・コロンナ 大橋喜之訳
『ヒュプネロートマキア・ポリフィリ 八坂書房　2018 年
—全訳・ポルフィルス狂恋夢』 978-4-89694-255-2　6900 円＋税

夢の中で神話世界を放浪する主人公の旅は、ヴェヌスとマルスの密儀で第一巻を閉じ、金星・銅と火星・鉄の儀式の擬制がアッティスの墓前で暗示されるが、第二巻では見出されたポリアが目覚めによって霧散する。この古代宗教の「再解釈」は、錬金術書に収録された寓意画の秘密を白日のもとに晒すかも知れない。

●アタナシウス・キルヒャー 菊池賞訳
『普遍音樂 工作舎　2013 年
—調和と不調和の大いなる術』 978-4-87502-450-7　4800 円＋税

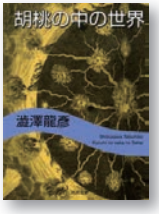
バロック以前の音楽は「古楽」と呼ばれるが、博覧強記の巨人キルヒャーによる本書は、古楽による「エンブレム的な世界像」についての百科事典となっている。

本邦の文芸と錬金術

●種村季弘
『黒い錬金術』 白水Uブックス　1991 年
▲ 978-4-560-07316-2　950 円＋税

「神話と錬金術：ヘルメスの変貌」は基本中の基本。このエセーとともに収められた「錬金術のエロティシズム」では、『立昇る曙』に付録として収録された「アリスレウスの幻視」から、『逃げるアタランタ』へと連想の糸をたぐることができる。

（初版＝1979 年桃源社刊）



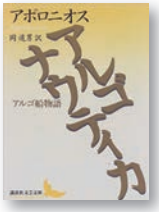
●澁澤龍彦
『胡桃の中の世界』（新装新版）　河出文庫　2007 年
▲ 978-4-309-40828-6　780 円＋税

エセー「宇宙卵について」では、「哲学の卵」について語るうちに『逃げるアタランタ』の第 8 エンブレムにも言及される。著者は『逃げるアタランタ』の銅版画作者をド・ブリーとしており、メリアン説をとっていないところに興味を惹かれる。
（初版＝ 1974 年青土社刊）

古代ギリシア・ローマの源泉へ

●アープレーイユス　呉茂一・国原吉之助訳
『黄金の驢馬』　岩波文庫　2013 年
978-4-00-357001-2　1080 円＋税

最終章のイシスの祭儀は夢文学のすべてが拠って立つもので、変身・変成譚の根の根。イシスが月の女神であってみれば、錬金術の月・銀の変成と習合する定めも想像に難くない。
（邦訳初版＝アプレイウス『黄金のろば』上下、1956/57 年刊）



●アポロニオス　岡道男訳
『アルゴナウティカ　講談社文芸文庫　1997 年
―アルゴ船物語』　978-4-06-197581-1　1800 円＋税

錬金術書の比喩となっているともいわれる「金羊毛」（ゴールデン・フリース）探しの旅。『魔法の門』には、この神話がビザンツ世界から錬金術の伝統にとり込まれる過程が言及されている。

●プルタルコス　柳沼重剛訳
『エジプト神イシスとオシリスの伝説について』　岩波文庫　1996 年
▲ 978-4-00-336645-5　640 円＋税

プルタルコスの雑纂『モラリア』のなかに埋もれている一編。ばらばらにされたオシリスの屍をあつめるイシスのイメージは、後代に錬金術の業を実修する者の比喩となった。

●カルキディウス　土屋睦廣訳
『プラトン「ティマイオス」註解』　京都大学学術出版会　2019 年
978-4-8140-0224-5　4500 円＋税

ティマイオスが語る「アニマ・ムンディ」（世界霊魂）は宇宙の構成であるとともに、調和の音楽でもあった。西欧では、プラトンが語る『ティマイオス』は必ずカルキディウスの註解とともに読まれたという。

そして中世ヨーロッパの源泉も

●ロベール・ド・ボロン
『魔術師マーリン』
（西洋中世奇譚集成）

横山安由美訳
講談社学術文庫　2015 年
978-4-06-292304-0　1110 円＋税

魔術師の代名詞となったマーリン。円卓の騎士物語ばかりでなく、錬金術にも不可思議なメルリヌスの幻視が伝えられることになった。その中世物語の嚆矢。

●『東方の驚異』
（西洋中世奇譚集成）

池上俊一訳
講談社学術文庫　2009 年
▲ 978-4-06-291951-7　660 円＋税

中世のアリストテレスは偽書と伝説に満ちていた。なかでも、偽書簡「アレクサンドロス大王からアリストテレス宛書簡」は、アリストテレスが大王に捧げたとされる書『秘中の秘』とともに広く読まれ、インドの文物についての驚異を伝えたという。

＊価格税別／▲印＝ 2022 年 6 月末時点で版元在庫なし

八坂書房の
最新刊
2022年
6月25日発売

魔法の門［ポルタ・マジカ］
―ローマに遺された錬金術象徴の秘密

ミーノ・ガブリエレ
大橋喜之訳
ISBN 978-4-89694-330-6
4500 円＋税

「放浪の錬金術師が姿を消す直前に残した謎文字が写し彫られた」など、興味深い風説をまとって古都ローマに立つ「魔法の門」の真の姿とは？　門の向こうに拡がるイメージ豊かな〈錬金術の都〉へと誘うスリリングな論考。図版多数。

【目次より】
第Ⅰ章　錬金術師たちと王女
第Ⅱ章　パロンバーラは薔薇十字会員であったのか
第Ⅲ章　「憂鬱気質」の詩人パロンバーラ
第Ⅳ章　パロンバーラ荘の碑文の数々
第Ⅴ章　「燭台」の象徴図像
第Ⅵ章　語る門と薔薇十字会員たち

大橋喜之×八坂書房の本

＊価格税別

●『ピカトリクス　2017 年
―中世星辰魔術集成』　978-4-89694-233-0
6800 円＋税

中世からルネサンスにかけ、ヨーロッパ各地で密かに書写され読みつがれた伝説の魔道書、ラテン語版からの待望の全訳！　西洋の「隠れた知の水脈」の具体的な証言に溢れる貴重な「源泉」として、ワールブルク（ウォーバーグ）研究所が早くから注目した秘書の全容に、研究史などの詳細な解説を付す。

●ヴィンチェンツォ・カルターリ　2012 年
『西欧古代神話図像大鑑　978-4-89694-141-8
―全訳：古人たちの神々の姿について』　6800 円＋税

ギリシャ神話をはじめとする異教の神々の世界の全体像を、詳細な図版とともに紹介、ルネサンスの芸術家たちに霊感を吹き込んだ伝説の書。「神秘学・錬金術の奥義やエジプト象形文字の解読にも活用された……本書を手にすれば、ルネサンス期の神像に隠された信仰と欲望をきっと見透せる！」（荒俣宏氏評）。

●カルターリ／ピニョリア［増補］　2014 年
『西欧古代神話図像大鑑［続篇］　978-4-89694-141-8
―東洋・新世界篇／増補・補註／（付）図版一覧　4800 円＋税

ギリシア神話を扱う正篇（上記参照）への補註のほか、日本の神仏の姿を西欧で最初に印刷紹介したとされる図や、安土城の一部を描きとどめたという図をはじめ、貴重な図像史料にあふれる「東洋・新世界篇」などのバロック期の増補を完全収録。さらに正続両篇を網羅した全図像一覧を加えた必携の一冊。

●フェデリコ・ゼーリ　2010 年
『ローマの遺産　978-4-89694-942-1
―〈コンスタンティヌス凱旋門〉を読む　3800 円＋税

「質の悪いたったひとりの修復家が、戦争の爆撃より多くの破壊をもたらす」――毒を含んだ警句と、鑑定家ならではの鋭い審美眼で知られるイタリア美術界の鬼才ゼーリ（1921-98）が、ローマ屈指の観光スポット「コンスタンティヌスの凱旋門」に秘められた文化史の襞とうねりを鮮やかに紡ぎ出す名著。

●マージョリ・リーヴス　2006 年
『中世の預言とその影響　978-4-89694-881-3
―ヨアキム主義の研究』　9800 円＋税

中世後期、至福の「第三の時代」の到来を告げる預言とともに、人びとが絶えず口にした謎の預言者､「フィオレの大修道院長ヨアキム」とは誰だったのか？預言に憑かれ人びとの怒濤の情念の歴史を鮮やかに再現した名著の誉れ高い労作、待望の邦訳。『形象の書』『教皇預言集』などの貴重な図版を多数収載。

●ラウール・マンセッリ　2002 年
『西欧中世の民衆信仰　978-4-89694-493-8
―神秘の感受と異端』　2800 円＋税

聖人、聖母、奇蹟、巡礼、魔術……そして異端。中世の民衆の心を捉えた数々の宗教的「逸脱」をキリスト教会との持続的な緊張関係のうちに捉え、その本質を明晰かつ周到な語り口で説き明かす、ローマの碩学マンセッリ（1917-84）教授の講義録。

『魔法の門』と錬金術をさらに愉しむためのミニ・ブックガイド
【非売品】
八坂書房発行　2022年7月5日 / 8月8日修正第二版
禁無断転載・不許複製　©2022 Hiro Hirai, All rights reserved